

| 自己評価 | | | |
|--------------------------------|--|--|--------|
| 学校運営計画(4月) | | | 評価(総合) |
| 学校運営方針 | | 児童生徒一人一人が大切にされ、将来の希望が見いだせる学校づくり ○ 一人一人の教育的ニーズに応える学校 ○ 児童生徒の人権が尊重された安全安心な学校 ○ 保護者や地域社会に信頼される学校 | |
| 昨年度の成果と課題 | | 年度重点目標 具体的目標 | |
| 一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の実践 | | ①PDCAサイクルに基づいた、個に応じた教育課程の充実 ②ICT機器の効果的な活用や校内研究、授業実践力の向上 ③キャリア教育、道徳教育、食に関する指導、性に関する指導の充実 ④学校間交流、居住地校交流、施設等との交流及び共同学習の充実 | |
| 安全・安心な教育環境の整備 | | ①危機管理意識の高揚 ②いじめの未然防止と、組織的且つ適切な対応 ③不登校傾向児童生徒、家庭への丁寧な対応 ④児童生徒一人一人に寄り添った丁寧な指導、人権が尊重される教育・環境づくりの実践 ⑤学部会やケース会議等による児童生徒の課題に関する情報共有や、関係機関と連携した対応 ⑥緊急時シミュレーションや避難訓練の効果的実施 ⑦施設設備の安全点検による児童生徒の安全・安心の確保 | |
| 保護者、地域、関係機関等との連携 | | ①保護者との相互理解の深化 ②PTA活動の活性化、保護者との連携力、教育力の向上 ③ホームページ等の広報活動の充実 ④地域の学校や教育関係者への相談支援の充実 ⑤学校見学会等の充実、地域の適正な就学支援体制づくりのための田川地区教育委員会等との連携強化 | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) |
| 学習指導 | (小)授業実践力の向上に努める。 | 国語・算数の指導内容段階表を活用して、適切な実態把握や目標設定、学習活動設定に努め、系統的な指導の充実を図る。 児童の実態に即した単元題材別指導計画の作成に努め、活用させた授業の実践や見直しを図る。 | |
| | (小)児童一人一人に寄り添った丁寧な指導の充実を図る。 | 児童の言動に目配り、心配りし、細かな変化に気付くことができる姿勢に努め、いじめの未然防止と早期発見、迅速な対応を図る。 児童一人一人の人権が尊重されるような適切な言葉掛けや接し方を心掛ける。 | |
| | (中)各教科等の年間指導計画と単元題材別指導計画を作成し、授業実践に生かす。 | 音楽、美術、保健体育、職業・家庭の単元の目標や本時のねらいについて教師間で共有し、個に応じた授業を実施することで支援及び手立ての充実を図る。 総合的な学習の時間、作業学習の年間指導計画の作成に当たり、中学3年間を見通した系統性のある学習計画を立てる。 | |
| | (中)生徒の主体的な学びの場となる安全で安心な校外の学習を計画し、内容の充実を図る。 | 学習の振り返りでICT機器を積極的に活用し、生徒自らが学びを評価する機会を意識的に設ける。 適時意識した言葉掛けや実態に応じた指導を充実させることで、人権が尊重されていると実感できる学校生活の実現に努める。 | |
| 教務 | 系統的な年間指導計画と単元題材別指導計画を作成し、活用する。 | 音楽・図画工作(美術)等の学びを整理し、小・中学部共通の様式で年間指導計画を作成し、活用する。 生活単元学習の年間指導計画をもとに、各教科の目標を意識した単元題材別指導計画を作成し、活用する。 | |
| | 諸指導等の運用、作成に関する確認事項を指導する。 | 個別の指導計画や個別的教育支援計画、指導要録、出席簿等の作成方法、原本の取扱い等についての職員研修を計画的に行い、周知する。 総合的支援システムでの作成、保存等について計画的に職員研修を通じて全体周知し、諸問題に即時に対応する。 | |
| 情報 | 授業におけるICT活用情報を整備する。 | ICT活用の基本情報について教員全員に資料集を配布し、随時資料を追加する。 ICTの授業活用情報を提供する。 | |
| | 校務におけるICT活用情報の提供を促す。 | ICT活用の情報集「ICT早わかり」と「情報セキュリティ要項」の内容を紹介する。 校内のサーバーやクラウドの使い方について、研修会やホールお知らせで周知を図る。 | |
| 研修 | 職員や新任者の実態やニーズに応じた研修を実施し、自主研修の情報発信に意識を高める。 | 研修週間についてのアンケートを実施し、職員のニーズを把握する。 校外で実施される自主研修の情報を適宜発信して参加を促し、職員の専門性の向上を図る。 | |
| | 全職員の共通理解の下、校内研究組織を構築して主体的に取り組めるようにする。 | アンケートで本校の課題や職員の困り感を把握し、学校教育研究の取り組みに生かす。 見直しをもって学校教育研究に取り組めるように、年間スケジュールを作成する。 | |
| 庶務 | PTA活動において、保護者との連携を図る。 | PTA行事の運営において、保護者の参加を促す。 PTA広報活動において、保護者と協議しながらPTAだよりを発行していく。 | |
| | 卒業生を対象とした取り組みを充実させる。 | 20歳を迎える卒業生への在校生によるプレゼント作成を計画、実施する。 関係諸機関と連携し、卒業生の近況把握を行う。 | |
| 児童生徒 | 児童生徒の問題行動の未然防止に努める。 | 学校生活アンケートの内容や児童の理解を深めて実施し、児童生徒がいじめに向かない態度・能力の育成を図る。 定期の実態報告会に加え、教員を対象とした研修を行う | |
| | 自らの力で危険から身を守るために必要な知識・技能を身に付けるようにする。 | 全職員で危機管理マニュアルの確認を行い、児童生徒にとって充実した避難訓練とする。 交通安全教室や自主通学などを通して、交通マナーやルール、危険を回避する方法などを身に付けるよう個に応じた指導を計画、実施する。 | |
| 保健 | 緊急時対応を具体化し、事前事後の危機管理意識の向上を図る。 | 迅速な対応が得られるよう、校外やグループでの学習の緊急時対応の見直しを行う。 ヒヤリとした事例の事例の方法を見直し、報告の流れの定着を図るとともに、環境改善に努める。 | |
| | 児童生徒の実態に即した健康教育の充実を図る。 | 性に関する指導の年間計画を活用した授業実践を行うとともに、SCと連携し、性に関する個別対応の充実にも努める。 各季節と連携し、朝の運動や歯磨き、手洗い等の日常生活動作や運動習慣の定着を図る。 | |
| 進路指導 | 児童生徒の発達段階に合わせたキャリア教育の推進を図る。 | キャリア教育において目指す姿や具体的な学習についての具体的な計画・立案・実施の充実を推進する。 小・中学期間でキャリア教育について、どの学年で何を学ぶかを明確にし計画を立てて実施する。 | |
| | 進学等に関する職員研修や事業所見学の充実を図る。 | 事業所や関係機関、PTAと連携し、教員や保護者を対象とした講師招聘研修会や事業所見学会を実施する。 事業所見学の際、就労継続支援事業所の種類や特徴についての職員研修を実施する。 | |
| 支援 | 外部専門家や職員が児童教育支援事業の活用を通して、特別支援教育の専門性の向上を図る。 | どのような内容を誰に相談して良いか分かるよう、相談までの流れのフローチャートや各講師に対する相談内容一覧を作成し周知する。 作業療法や感覚統合療法などの専門性に応じた指導助言を受けられるように、授業や協議の時間を調整する。 | |
| | センターの役割として、地域の教育相談を実施する。 | 相談内容に応じて、事前に参考資料を準備したり本校職員から訪言をいただいたりする。また、教育相談実施後にはその後の変容や現状等を相手校と電話で共有する。 相談内容や助言内容については課内で情報共有し、課全体で取り組んでいく。 田川地域の小・中学校の特別支援教育コーディネーターや希望者が集まってそれぞれの学校での特別支援教育の現状や課題について情報を共有する場を設ける。 | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

Blank box for improvement measures based on self-evaluation and stakeholder evaluation.

| 学校関係者評価 | |
|-----------------|---|
| 評価(総合) | 自己評価は |
| | A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である |
| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
| | |
| 評価項目以外のものに関する意見 | |
| | |